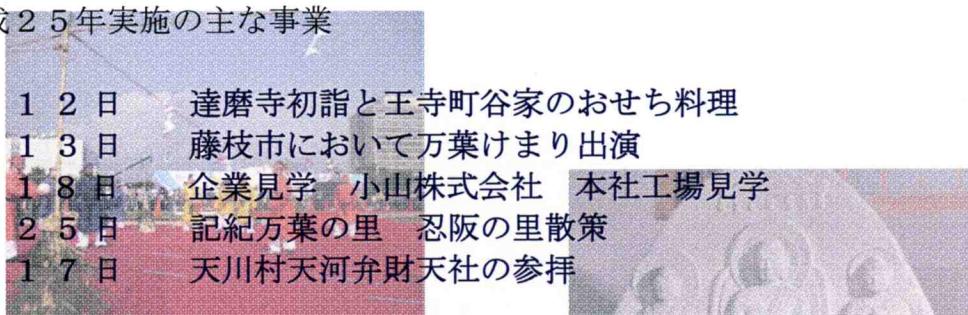


フォーラムニュース

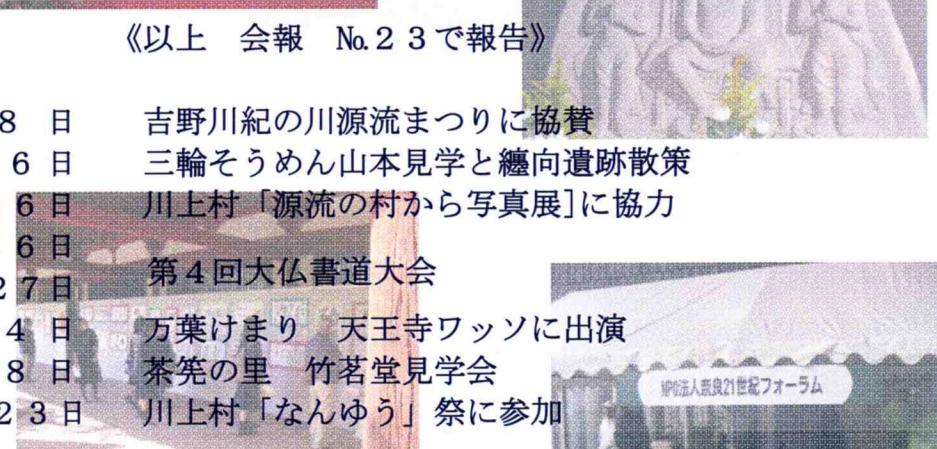
特定非営利活動法人奈良21世紀フォーラム会報

2014年新春号 No.24

平成25年実施の主な事業

- 
- 1月12日 達磨寺初詣と王寺町谷家のおせち料理
 - 1月13日 藤枝市において万葉けまり出演
 - 2月18日 企業見学 小山株式会社 本社工場見学
 - 5月25日 記紀万葉の里 忍阪の里散策
 - 7月17日 天川村天河弁財天社の参拝

《以上 会報 No.23で報告》

- 
- 9月8日 吉野川紀の川源流まつりに協賛
 - 9月26日 三輪そうめん山本見学と纏向遺跡散策
 - 10月26日 川上村「源流の村から写真展」に協力
 - 10月26日～27日 第4回大仏書道大会
 - 11月4日 万葉けまり 天王寺ワッソに出演
 - 11月8日 茶筅の里 竹茗堂見学会
 - 11月23日 川上村「なんゆう」祭に参加

奈良県企業人列伝の冊子発行

4刊



「一灯照偶万灯照国」

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平成26年甲午年を迎える皆様各位の本年の
ご健勝を心よりお祈り申し上げます

我が国は、昨年アベノミクスによるデフレ経済からの脱却、東京オリンピック開催決定、富士山に次ぐ「和食文化」のユネスコ文化遺産登録など、明るい話題も多かったものの、東アジアの外交安全保障問題や原子力発電をめぐるエネルギー問題、相次ぐ自然災害、人口減少など、さまざまな課題を抱えての新年となりました。

しかし厳しい情勢のなかで、私達は前向きな姿勢で、将来に希望を抱くことが出来る国を目指して、これらの課題に取り組んでいかなければなりません。

戦争の廃墟の中から立ち上がり奇跡的な高度成長を成し遂げた日本人にそれが出来ない筈はありません。日本民族本来の良さを生かして世界に貢献する使命感を持てば結果は必ずついてくると思います。

先端技術やものづくりなどハードパワーに加えて勤勉、忍耐、正直、連帯などのソフトパワーを合わせたスマートパワーでは世界でも類まれな優れた特性をもつ日本人です。

未来は歴史との対話から紡ぎだされるものだとすれば、日本の始まりである大和のこころを精神的基盤として、その伝統の上に新たな創造を加えてゆくことが重要だと思います。

これから時代、評論や傍観者に留まるのではなく、一人一人が実行者になって立ち向かう時ではないでしょうか。

誰かがやってくれるというのでは結局乗り遅れてしまうだけです。

勿論一人の力では限度があります。しかし一つの灯が片隅を照らすだけであっても万人が灯を掲げれば国を照らす事にもなるでしょう。

大海の水は一人の喉さえ潤すことが出来ませんが、僅か3尺の泉は万人の渴きをも癒すことが出来ます。

本年も、なんとかご一緒に泉を掘り、一灯を掲げて参りましょう。

よろしくお願ひいたします。



I 平成25年9月から12月に実施した事業

1. 万葉けまりの保存

◎四天王寺ワッソに出演 「友情は1400年の彼方から 一四天王寺ワッソー」

平成25年11月4日（月・振替休日）なにわの宮跡において「四天王寺ワッソ」が開催されました。四天王寺ワッソは古代のなにわを舞台に行われた、日本と朝鮮半島の交流の様子の再現した祭り。当時のものと推定される音楽と「ワッソ！ワッソ！」の掛け声とともに舟だんじりをひき、巡行してくる行列のを聖徳太子などの古代日本人に扮した参加者が当時のものと推定される作法で出迎える。その「ワッソ巡行」が始まる前のひととき、メインステージの後ろに設定されたプレステージで華やかな演目が披露されました。

演 目 プロ グラ ム	プレステージ (12:00~13:00)			
	NPO法人奈良21世紀フォーラム 万葉けまり 鞠を蹴るゲームは飛鳥時代に始まりました。奈良21世紀フォーラムは、平城遷都1300年を記念して、この古代行事を復元しました。	白頭学院伝統芸術部 サムルノリ「夢舞」 伝統楽器ケンガリ・シン・チャングーピクを用いるサムルノリ。夢舞は、一人ひとりの夢、平和への夢を躍動感ある旗の舞や演奏で表現します。	原笙会 女人舞楽「登天楽」 1400年前、我が国に伝えられた舞楽は、日本最古の芸能と言われています。天に向かい仰ぐような舞振りの登天楽を更なる飛躍を祝う想いで舞います。	
飛鳥時代－聖徳太子－		飛鳥時代－大化革新－		

(四天王寺ワッソ チラシより)

その演目一つとして飛鳥時代一大化改新によって新しい国づくりの発端になった蹴鞠が紹介されました。

当日は昨夜の雨も止み、祭りに相応しい天気になりました。特別参加の落語家「林家染太」師匠と当フォーラムの「福嶋監事」の軽快な会話で、蹴鞠保存会の鞠子の皆様が演じる「万葉けまり」を紹介しました。参加の皆様に往時の貴族の遊びのひとつ蹴鞠を観戦していただいて、楽しんで頂きました。鞠子のメンバーは奈良学園のご協力でグランドを利用させて頂き、強化練習を行って本番に備えましたので、「四天王寺ワッソ」本番は大いに練習の成果を発揮することができました。



2. 書の文化の伝承

◎第4回大仏書道大会「書くことは楽しい in 奈良」を開催

実施日 平成25年10月26日（土）～27日（日）

会場 東大寺大仏殿西回廊・東大寺総合文化センター金鐘ホール

実施内容

- 全国の高等学校、大学より作品の募集 入選作100点の展示

作品応募校 62校

作品応募点数 1248点

- 大学生、高等学校生による席書会の実施

席書会参加者 36名

- 講演会の開催

演題 大仏様を造った字

講師 馬場 基氏（奈良文化財研究所 主任研究員）

聴衆者 150名

10月26日（土）から27日（日）にかけての2日間、東大寺の回廊にて100点の書道作品を展示しました。若者らしい創造性あふれる作品、書の可能性を感じさせるような作品を意識して、東大寺の森本公誠長老や奈良県教育委員会の方とともに選定しました。この「大仏書道大会」は平城遷都千三百年にあたる2010年から始まり、今回で4回目です。全国から1200点以上の多数の応募がありました。



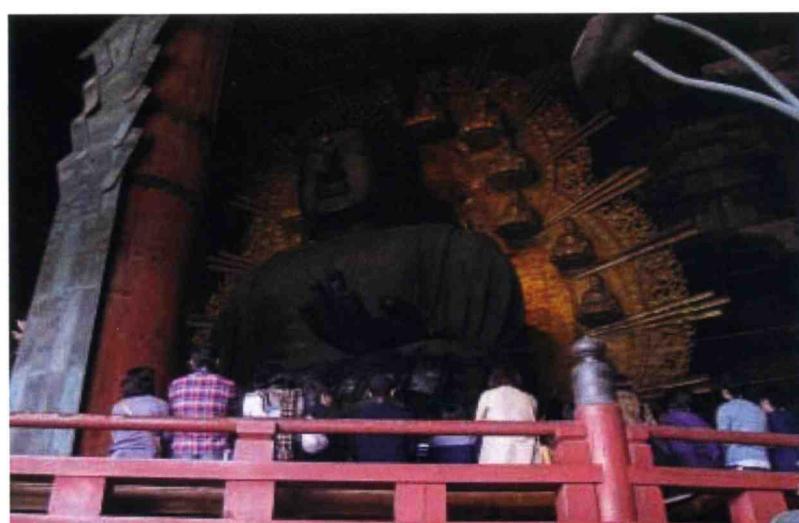
特別賞7点の入選者

奈良県知事賞	佐野 智香さん	福岡県立糸島高等学校
奈良県教育長賞	樋口 一葉さん	大阪府立今宮高等学校
奈良市長賞	福部 愛海さん	埼玉県立草加高等学校
奈良市教育長賞	西村 ゆうさん	北海道清水高等学校

東大寺賞 山口 知剛さん 東大寺学園高等学校
朝日新聞社賞 大内田菜摘さん 北海道清水高等学校
フォーラム理事長賞 宇野菜摘美さん 埼玉県立草加高等学校



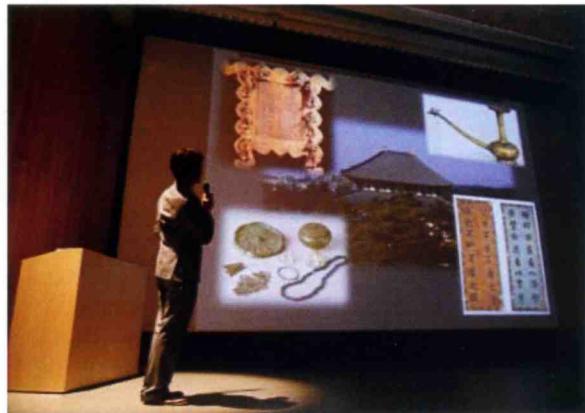
2日目は展示スペースの隣で席書会を催し、大学生・高校生36名が参加しました。上司永慶・東大寺教学執事から「大仏さま造顕のこころ」をご講話いただいたあと、華厳経のエッセンスが凝縮された「華厳唯心偈」の写経と創作作品を書きあげ、大仏殿にて奉納しました。創作作品では、彩色した鮮やかなものもあり、書の新しい形を感じさせられました。



2日目午後、講演会の開催をしました。奈良文化財研究所から馬場基（ばば・はじめ）主任研究員を招き、「大仏様を造った字」と題してお話しいただきました。文字は世界中に様々あるものですが、日本では奈良時代に文字の運用技術が格段に向上し、全国の人々の力を集めて巨大な大仏を造顕するまでに至りました。



講演される馬場先生



台風接近のため初日がやや遅れての開始となりましたが、約1000名もの多数の来場がありました。声を聞くと、正倉院展と一緒に見に来られた方、外国から東大寺を拝観に来られて立ち寄った方も少なくありませんでした。今回展示した100点は、2014年2月の「珠光茶会」期間中、ならまちの奈良市音声館でも展示予定です。

3. 吉野川源流の水源地を守る活動支援

◎吉野川・紀の川源流まつりへ参加

9月8日、「吉野川源流の水源地の森を守る活動」の一環として、吉野郡川上村の森と水の源流館や、やまぶきホールで開催された吉野川・紀の川源流まつりへ参加しました。



源流まつりは、川と水の恵みでつながる人々、日本全体、地球まるごとで水や自然を考える仲間たちが集まり、交流する一日として毎年開催されています。今回は、

大滝ダムの見学会、映画「森聞き」（柴田昌平監督）を上映、川辺の運動会などのイベントのほか、物産展が開催され、和歌山市をはじめ橋本市、五條市など流域12市町村をはじめ、多くの物産コーナーが賑わいをみせておりました。

当フォーラムは恒例の新鮮な長野県川上村の高原野菜のキャベツととうもろこしの販売を実施し完売をいたしました。

◎川上村「源流の村の写真展」に協力

平成25年10月26日（土）に実施された「源流の村野写真展」に参加いたしました。当日は川上村の山幸彦のもくもく館に於いて川上村を中心に活躍される写真家中山氏をはじめ多くの方から応募された作品が展示されていました。当フォーラムのメンバーは受付、誘導等の業務を行いました。

会場には、村内をはじめ、県外からも大勢の方が来場されました。

フォーラムからは4名が参加しました。

◎川上村「なんゆう祭」に参加

平成25年11月23日～24日まで川上村において来年実施予定の第34回全国豊かな海づくり大会のプレイベントの一環として南部地域産業復興推進大会「なんゆう祭」が実施されました。両日とも晴天に恵まれ、延べ4,950人が訪れました。

会場では、南部地域のゆるキャラや奈良のご当地アイドルユニット「ルシャナ」が会場を盛り上げていましたほか、和太鼓演奏などもありました。また、奈良県南部の“うまいもん”や特産品の販売もあり大勢の方が楽しんでおられました。

フォーラムからは3名が参加しました。

4. 奈良県企業の企業文化、企業風土の調査紹介

1. 会員企業見学会

◎「三輪そうめん山本めんゆう館」の見学会を開催

実施日 平成25年9月26日（木）

会 場 (株)三輪そうめん山本会社見学と、桜井市埋蔵文化センターおよび纏向古墳群の見学

参加人員 21名

平成25年9月26日、参加者21名は桜井市立埋蔵文化財センターに集合しました。



センターでは、学芸員の中村さんから、ガラスケースに掲げられた東西2km南北1.5kmの楕円形状に展開する纏向遺跡の大きなパノラマ写真や発掘土器をもとに、古墳の位置関係や築造年代と各遺跡から出土した土器の種類・用途や製作地の解説がありました。

この後、常設展示を見学後纏向遺跡の散策に向かい、桜井市のボランティアガイドの辻さんに同行していただきました。センターから169号線を北に車で5分ほど行くと、纏向石塚古墳があり、近年この古墳が纏向遺跡の中で一番古い古墳ではないかと言われているそうです。纏向石塚古墳か



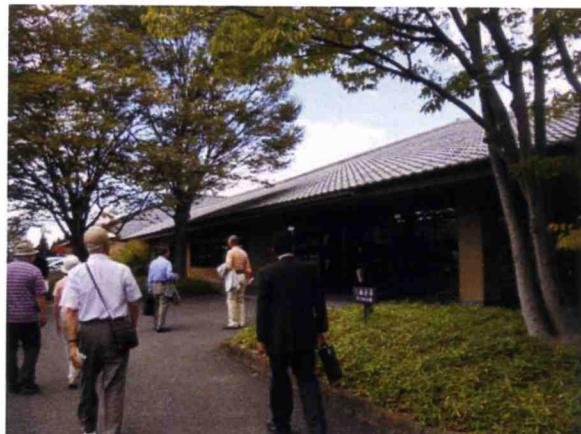
ら、JR巻向駅の西側にある「纏向遺跡居館域」調査跡地を見た後箸墓古墳へと向かいました。

箸墓古墳は、現在は宮内庁によって管理されおり、第7代孝霊天皇の皇女、倭迹迹日百襲姫命（やまとととひももそひめのみこと）の大市墓（おおいちはか）とされています。

纏向遺跡の一部を駆け足で見た後、山本の本社に入りました。昭和55年に建設された現本社屋は、建築学会をはじめ各界の賞を受賞した建物で、地域の歴史的景観に溶け込んでいます。

山本太治社長をはじめ幹部の方々が参加者を迎えていただき、温麺と柿の葉すしとの美味しい昼食を済ませた後、「麺ゆう館」のホールで社長のご挨拶に引き続きそうめんの製造工程のビデオを観賞しました。

その後、隣の部屋に移ってそうめん作りを体験です。担当の社員から説明をうけた後いよいよそうめん作りに挑戦。やってみると手と棒とがうまく合わず苦戦する人が続出、担当者の応援をもらう場面もありました。



とにかく幅30cm長さ20cmのもの
そうめんが丈が2m近い細いそうめんに変身、最後には全長は300mほどになるそうです。

貴重なそうめん作りの体験をしたあと、ホールに戻り山本社長から、「山本の歴史」「三輪そうめんの歴史」「そうめんの製造工程」「世界の麺」等についてのお話からネットを利用した通信販売や本社に設置された茶屋・売店をフルに機能させるビジネスへの転換を図っている現状をお聞きし、奈良に数多くある伝統産業の今後の方向を占ううえで一つのモデルになるのではないかと思いました。

午後4時、参加者の皆さんには、売店で各自の手作りのそうめんを受け取って楽しそうに山本本社を後にされました。

(T. H記)



◎「竹茗堂」の見学会を開催

実施日 平成25年11月8日（金）

会場 茶筅工房「竹茗堂」見学会と東大寺ゆかりの法楽寺参拝

参加人員 26名

今回の見学会は、これまでの企業の現場を拝見するのとは趣を変え、茶道という日本文化を支える「茶莖」づくりの歴史と伝統的な職人の技をまじかに見る機会とするため、高山を代表する茶莖工房「竹茗堂」を訪問し久保昌城代表から貴重なお話と実際の製作工程をご披露いただくこととしました。

見学会当日、26名の参加者は周りの田んぼを見おろす小高い丘の上の竹茗堂を目指し階段を踏みしめ上って行きました。

久保代表はじめご家族の皆さまの温かいお出迎えを受け、奥座敷の二部屋をぶち抜いた会場で、久保代表から鷹山宗砌に始まる高山茶莖の歴史と茶莖の製作工程について実技を交えて詳しくご説明をお聞きしました。



茶筌の材料である竹のお話に引き続き、台を前に取り出し、短く切った竹と小刀を手に久保代表自ら「片木」の作業に入りました。この後、「小割」から「味削り」の一部まで、伝統工芸士でもある久保代表の実演が続きました。

現在、竹茗堂の工房で製作している茶筌は120種類に及びます。それらの代表的茶筌を一本づつ取り上げての説明の後、竹茗堂で開発した新製品の紹介がありました。新しい市場を開拓し茶道の裾野を広げるためのもので、ユニークなところでは登録商標が認められた「おちやせん」の合格祈願お守りが披露されました。

高山茶筌のお話と実技のおかげで、奈良が世界に誇る伝統産業の神髄に触ることができ、最後にご家族のお点前でお茶とお菓子をいただき無事見学会を終えました。



竹茗堂から下って南へ徒歩5分ほどの丘の上に、法楽寺があります。江戸時代公慶上人が東大寺大仏殿再建の発願をした寺としてまた東大寺の別院としても有名です。

嶋司(こうし)住職から本寺の由来を鷹山氏の系図とともに高山が生んだ二人の偉人公慶上人と鷹山宗砌のお話をいただきました。

現在の高山竹林園は、鷹山氏の

菩提寺で法楽寺の末寺でもある円楽寺の跡に出来た施設で、公慶上人の父高山頼茂と母の墓があります。この法楽寺には、高山茶筌業組合の発起で昭和9年4月に建立された鷹山宗砌の碑が元あった本堂の敷地に建っており、碑の正面中央に「高山宗砌之碑」、それを挟んで左右にそれぞれ「茶筌」と「元祖」の文字が刻まれていました。

秋の夕暮、刈終った田んぼが赤く染まる頃、やがて木枯らしが吹き雪が舞う季節になればいつものように里に現われる竹の寒干しの風景を想像しながら参加者は茶筌の里を後にしました。



(T. H記)

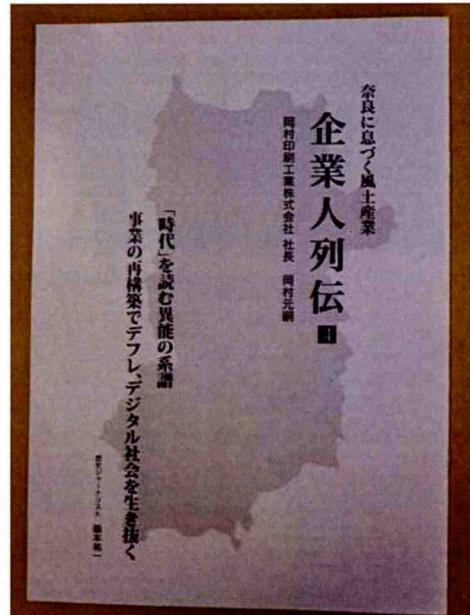
◎ 奈良に息づく企業人列伝の発行

本年度より新たな事業として奈良の風土に育まれ成長するユニークな企業を対象に記録・調査と経営トップの取材を通じて

「奈良に息づく風土産業企業人列伝」として製作、発行しました。

- ① 清光林業株式会社会長 岡橋清元
4月 1日 発行
- ② 小山株式会社社長 小山新造
6月 4日 発行
- ③ 大和ガス株式会社社長 中井隆男
8月 19日 発行
- ④ 岡村印刷工業株式会社社長 岡村元嗣
12月 15日 発行

在庫が少々あります。希望者にお分けいたします。(実費)



II 事業の進捗状況（報告）

- ① 「奈良県企業の企业文化、企業風土」の調査紹介

「奈良に息づく企業人列伝」の発行 4名の方の取材を終え、執筆中。
近日発行します。

- ② 「万葉歌碑」の顕彰

26年度、桜井市に於いて保存されています記紀万葉歌碑の原書の展示会の実施、および図録の作成について、桜井市とともに準備を進めています。

III 今後の予定

平成25年12月末現在26年に実施予定の行事は以下のとおりです。

- 2月5日（水）奈良の歴史遺産探訪シリーズ
「川上村金剛寺・自天王神社御朝拝式」の参観
- 2月12日～16日 書の文化の伝承
珠光茶会において第4回大仏書道大会入選作品の展示
- 3月4日（火）会員企業訪問
大和ガス株式会社本社の見学

会員の皆様へ

各種行事への参加、ご支援よろしくお願ひします。

編集 足立伸之助、福嶋重博、岡田耕一
発行 NPO 法人 奈良二十一世紀フォーラム
〒630-8244 奈良市三条町 511-3 奈良交通第2ビル